

雨よけほうれんそうのミスト噴霧による省力及び増収効果

【概要】

5～9月播種の雨よけほうれんそう栽培において、発芽揃い後にミストを噴霧することで、遮光労力の軽減、増収が可能です。ミストを噴霧した場合にも、収穫後のトロケ発生等の悪影響はありません。

1 ミスト噴霧の効果

- (1) 無遮光で栽培しても、30%遮光+ミスト無の条件で栽培した場合(現地慣行)と同等の収量が確保できます(図1)。
- (2) 遮光の省略で、遮光幕展張にかかる5時間/10a/作の作業労力を削減可能です。
- (3) 無遮光でミスト噴霧しない場合と比較すると、23%程度の増収効果があります。

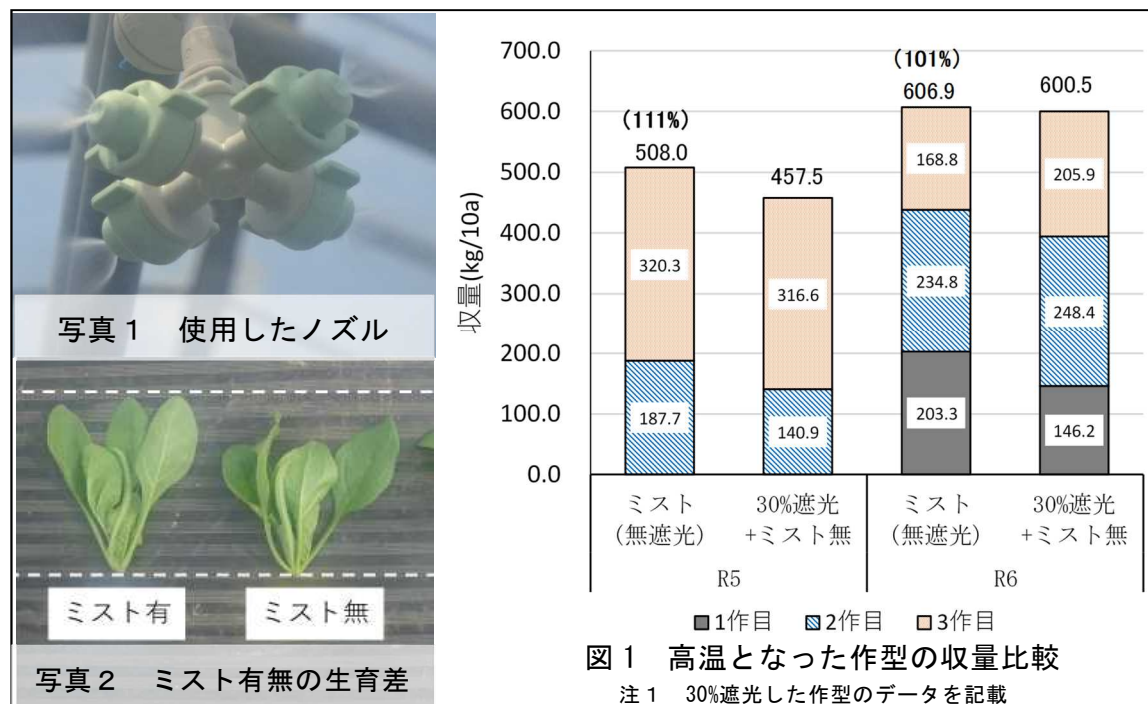
2 ミスト噴霧が収穫後の品質に与える影響

- (1) ミストを噴霧しても、収穫後のトロケ発生は増加しません。

3 留意事項

- (1) 発芽揃いのための遮光は従来と同様に実施し、発芽揃い後にミストを湿度条件に応じて3段階の制御により噴霧します。
- (2) ミスト噴霧のノズルは、クールネットプロヘッド(粒径 65 μ m)を使用します。
- (3) ミスト噴霧の効果を得るため、かん水等の管理は適切に行ってください。また、ハウス内気温が 35℃以上となる場合には、葉焼けを防ぐため適宜遮光してください。

【試験データ等】



【令和6年度成果】雨よけほうれんそうにおけるミスト噴霧による省力及び増収効果 (R6-指-22)